

はじめに

高等言語教育研究所長 江澤 照美

本研究所は『ことばの世界』を研究所年報として平成20年(2008)年度に第1号を刊行した。以降、研究所員や研究会発表者が投稿した論文・研究ノート・実践報告の他、研究所が主催または支援する活動の報告を掲載してきた。通算第8号となる本号には、論文3編、実践報告1編、資料1編のほか、本研究所の各部門の活動報告を掲載した。今年度の本研究所の活動にご参加およびご協力いただいたすべての皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げる。

平成27年(2015)年度の本研究所が実施した事業は以下の通りである。それぞれの活動内容の詳細については、本号の活動報告のページをご参照いただきたい。

1. 公開講演会の開催
2. 言語教育研究会の開催
3. 多言語競演レシテーション大会の開催
4. 外国語多読用図書の実践
5. 外国語授業改善研修会の開催
6. 学生自主活動支援

昨年より実施した事業の数は減っているが、いずれも本研究所設立当初から、あるいはここ数年来継続して行っている活動ばかりである。今年度も研究所運営委員の全面的な協力を得て無事開催することができた。

さて、本学内ではすでに周知のことであるが、8年間続いた本研究所は学内の研究体制の見直しにより、今年度末をもって閉鎖されることになった。代わって来年度4月からは通訳翻訳研究所が本学外国語学部所属の研究所として新たに開設される。

以上の事情により、今年度は上記の事業の実施に加えて、これまで続けてきた本研究所事業の継続や廃止について審議を重ねる必要があった。新研究所や他の部署に引き継ぐ事業もあれば、今年度限りで終了する事業もある。すべての事業を継続できないのは残念に思う。

しかしながら、この最後の2年間研究所長をつとめ、その他通算4年間運営委員として本研究所に関わってきた筆者の私見では、この8年間に本研究所が支援し、外国語学部の教員や学生が行った教育中心の活動の実績は間違いなく、学部教育の質の向上に貢献したと断言できる。個人的に本研究所に特に感謝したいのは、全国の大学に先駆けてのスペイン語の多読活動立ち上げに対する本研究所の支援と協力である。先行して活動を行っていた英語と共にスペイン語でも多読活動を始めたことにより、長久手キャンパス図書館に多読図書コーナーや閲覧スペースが設置されたのは本研究所の成果の一つである。

毎年大学祭2日目の開催が恒例となった多言語競演レシテーション大会も行事として定着し、出場する学生の活躍ぶりを見るのが毎年楽しみであった。レシテーション大会については来年度以降の活動継続を決定済みであり、開催主体が替わっても、今後も学生と教員が一丸となっ

ですばらしい本番のパフォーマンスを披露してくれることを期待している。

最後に、この刊行物『ことばの世界』についてお知らせする。

高等言語教育研究所は今年度末をもって閉鎖されるため、研究所年報としては最終号となるが、発行主体を変更して継続される可能性がある。(現時点では未定)

なお、本研究所年報としての第1号から第7号までは、本学の学術リポジトリにデータを移行したので適宜ご参照いただきたい。本号に査収されているデータは刊行より1年後に移行される予定である。

来年度から開設される通訳翻訳研究所の成功と発展を願いつつ、これまで本研究所の活動を支えて下さった歴代の学部長、各部門選出の委員の皆様、運営委員の皆様、そして学務課職員の皆様にご心から感謝の意を伝えたい。8年間どうもありがとうございました。

愛知県立大学 学術リポジトリ <https://aichi-pu.repo.nii.ac.jp/>

「研究所」→「ことばの世界」を参照

平成27年(2015年)度 研究所会議構成員

研究所長	江澤 照美	(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)
外国語学部長	吉池 孝一	(中国学科)
教育研究審議会委員	竹中 克行	(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)

および下記の運営委員

英語教育部門	宮浦 國江	(英米学科)
日本語教育部門	東 弘子	(国際関係学科)
CALL/ICT 部門	大森 裕實	(英米学科)

運営会議構成員(運営委員)および担当

研究会・講演会	人見 明宏	(ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)
レシテーション大会	東 弘子	(国際関係学科)
	エレノア・ロビンソン山口	(英米学科)
	佐藤 久美子	(ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)
『ことばの世界』編集	大森 裕實	(英米学科)
学生自主学習支援	月田 尚美	(中国学科)
担当職員	山田 登志子	(学務課)

研究所ウェブサイト <http://www.for.aichi-pu.ac.jp/gengoken/index.html>